

大学名：三重大学

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	<p>ユネスコスクールの三重県立桑名高等学校は、SSH 指定校として、ESD/SDGs 教育に熱心に取り組んでいる。三重大学の朴恵淑特命副学長（環境・SDGs 担当）（2023 年度から客員教授）は、運営指導委員会の委員長として関わり、年2回、全校生徒を対象とする、ESD/SDGs に関する特別講演；出前授業）を行っている。</p> <p>また、2022 年度は、愛知教育大学が主催する「ESD for 2030 TOKAI」プロジェクト（文部科学省補助事業「SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業」）の協力機関として、地域の学校教員が参加する研究会を実施するとともに、12 月 17 日には、三重大学で県内ユネスコスクールおよびユネスコスクール以外の学校教員の参加を得て本プロジェクトの研修会（ESD 授業を通じた学び）を開催した。</p> <p>さらに、三重大学教育学部では、ユネスコスクールである三重大学教育学部附属中学校を含む、附属学校園との連携を推進しており、2022 年度も、附属中学校と7件の連携活動を実施した。このなかには単発の出前授業だけでなく、通年での総合的な学習のカリキュラムの検討等も含まれる。</p> <p>三重大学教育学部 HP（連携活動情報掲載）  <a href="https://www.edu.mie-u.ac.jp/">https://www.edu.mie-u.ac.jp/</a></p>
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	2022 年 12 月 17 日に、三重大学においてユネスコスクール研修会を開催した。ユネスコスクールである三重中学校高等学校、三重県立桑名高等学校からの参加があり、同時開催した「ESD for 2030 TOKAI」の研修会と合わせて、これから求められる ESD 活動について意見交換する有意義なワークショップとすることができた。

		<p>また、三重大学教育学部では、ユネスコスクールである三重大学教育学部附属中学校を含む、附属学校園との連携を推進しており、2022 年度も、附属中学校と7件の連携活動を実施した。このなかには単発の出前授業だけでなく、通年での総合的な学習のカリキュラムの検討等も含まれる。</p> <p>さらに、2022 年 12 月 2 日に、附属学校園と教育学部の連携シンポジウムを開催し、65 名の参加を得て、連携活動の現状・課題・今後の展望等についての有意義な議論を行うことができた。</p> <p>三重大学教育学部 HP（連携活動情報掲載）  <a href="https://www.edu.mie-u.ac.jp/">https://www.edu.mie-u.ac.jp/</a></p>
	<p>2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。</p>	<p>ユネスコスクールである三重県立木本高等学校と三重大学の共催で、三重県のユネスコ世界文化遺産である熊野古道を歩くツアーを 2023 年 1 月に実施した。この活動は、三重大学生および留学生が三重県のユネスコ世界文化遺産である熊野古道の理解を深めること及び木本高校生が英語で熊野古道を案内する取り組みとの連携で、国際交流を深める取り組みである。</p> <p>三重大学トピックス HP  <a href="https://www.mie-u.ac.jp/news/topics/2023/01/2022-2.html">https://www.mie-u.ac.jp/news/topics/2023/01/2022-2.html</a></p>
	<p>3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。</p>	<p>三重大学は、愛知教育大学主催の「ESD for 2030 TOKAI」プロジェクトの協力機関として、プロジェクト内の研究会での小・中・高校教員の授業研究を支援した。研究会に参加した各教員は、ESD の授業モデル・指導案を開発することができた。</p>
<p>地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。</p>	<p>1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。</p> <p>2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。</p>	<p>三重大学は、愛知教育大学主催の「ESD for 2030 TOKAI」プロジェクトの協力機関として、本プロジェクトおよび ESD の重要性を地域に広く知らせるために、三重県総合教育センター（三重県教育委員会事務局）を通じて本プロジェクトの周知に努めた。2023 年 1 月 28 日に愛知県で開催された本プロジェクトの成果フォーラムには、三重県教育委員会事務局や県内の小学校教諭からの参加があった。</p> <p>2023 年 2 月 4 日に三重県が開催した第 1 回みえ森林教育シンポジウムのワークショップ「森林 ESD」を取り入れた多様な教育活動への対応」では、三重大学のユネスコスクール委員の平山大輔教授（教育学部）がアドバイザーの一人として携わり、教育現場、行政、民間企業などの様々なステークホルダーに、森林を題材とした ESD について広く知ってもらうことができた。</p> <p>ユネスコスクールである三重大学教育学部附属中学校の ESD/SDGs 活動の報告において、三重県地球温暖化防止活動推進センター、NPO 法人三重総合環境研究センター、伝七郎 ESD-SDGs スクールの関係者の参加を呼びかけ、学生の活動と地域のステークホルダーとの連携を図った。また、ユネスコスクールの支援においては、県教育委員会や県内高等教育機関だけでなく、一般社団法人 SDGs コミュニティや一般社団法人ネクストステップ研究会など、地域の多様なステ</p>

		ークホルダーと連携した。
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	三重大学は、愛知教育大学主催の「ESD for 2030 TOKAI」プロジェクトの協力機関として、三重県教育委員会、愛知教育大学、岐阜大学、皇學館大学と連携して ESD の推進に取り組み、ESD の実践に努める学校現場の教員の支援を行った。三重大学の担当者は、三重大学ユネスコスクール委員である平山大輔教授（教育学部）が務めた。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	三重大学は、日本・韓国・中国・タイの約 200 大学が加入している、アジア・サステナブル・キャンパス・ネットワーク(ASCN)の中心メンバー（日本サステナブル・キャンパス・ネットワーク(CAS-Net JAPAN)の会長；朴 恵淑三重大学特命副学長（環境・SDGs 担当）として、ユネスコスクールの存在や意義について広く知らせている。2022 年 11 月 23 日および 24 日に北海道で開催された ASCN 総会に朴 恵淑三重大学特命副学長（環境・SDGs 担当）が参加し、国内外の ASCN メンバーとの情報共有ができた。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	科学技術振興機構（JST）の国際交流事業である「さくらサイエンス」の支援を受けて三重大学教育学部理科教育が招聘したホーチミン市師範大学の学生とユネスコスクールの三重県立木本高校茶道部の生徒との交流活動を 2022 年 11 月 19 日に実施し、木本高校の生徒が日本の茶道の文化について英語で説明を行う等、有意義な交流ができた。
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。 （例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など）	2022 年 11 月 6 日から 11 月 20 日まで、エジプトのシャルムエルシェイクで開催された気候変動枠組条約締約国会議（COP27）に、朴恵淑三重大学特命副学長（環境・SDGs 担当）が参加し、三重大学及び三重県のユネスコスクール活動を紹介し、三重県内だけでなく、ユネスコスクールのグローバル活動に広げることができた。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	三重大学は、ユネスコスクール委員会を構築し、研究科・学部から委員を委嘱して運営している。特に、2021 年度からは三重大学国際環境教育研究センター(GECER)の HP に、ユネスコスクールのバナーを設け、三重大学ユネスコスクール委員会の活動、成果などを常に公表している。三重大学国際環境教育研究センター（GECER）HP <a href="https://www.gecer.mie-u.ac.jp/">https://www.gecer.mie-u.ac.jp/</a>
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	三重大学の教養教育のカリキュラムの「環境科学～環境管理学と SDGs」、地域イノベーション学研究科の修士・博士課程のカリキュラムの「社会経営基礎特論」及び「基礎科学特論」の講義において、ユネスコスクールにかかる教育を行った。資料は、三重大学 Moodle にアップしており、受講生はいつでもカリキュラム内容にアクセスできる。 また、教職員と学生を対象とする、地域イノベーション学研究科の研究内容講演会を通じて、ユネスコスクールに関わる教育を行なった。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連し	

	た調査研究を行うことができた。	
	4. 自由記述	<p>2022年7月15日に、三重大学・駐名古屋大韓民国総領事館主催、三重県・三重県経営者協会・三重県日韓親善協会・在日本大韓国民団三重県地方本部後援で、「日韓環境・SDGs フォーラム in 三重」を三重大学において開催した。対面式50名、オンライン50名の参加を得て、日韓の国際環境・SDGs 交流による、グローバル人材育成の基調講演及びパネル討論を行った。 三重大学トピックス HP (当日の動画掲載ページ) <a href="https://www.mie-u.ac.jp/news/topics/2022/11/post-2544.html">https://www.mie-u.ac.jp/news/topics/2022/11/post-2544.html</a></p> <p>また、2022年7月23日に、三重大学北勢サテライト「SDGs 研究会」・都市環境ゼミナール主催、三重県・三重テレビ放送後援で、「四日市公害訴訟判決 50 周年シンポジウム」を開催した。四日市公害訴訟判決(1972年7月24日)50周年を迎えて、産官学民のパートナーシップによる持続可能な社会・カーボンニュートラル社会三重創生のための基調講演、パネル討論を行った。</p> <p>日本の大学生による「第16回環境マネジメント全国学生大会」が、2022年6月25-26日に三重大学で開催された。ESD/SDGs、カーボンニュートラル社会形成に向けた、次世代人材育成をターゲットとし、分科会の成果物として「三重宣言」をまとめ、内外へ公表した。 三重大学トピックス HP <a href="https://www.mie-u.ac.jp/news/topics/2022/06/post-2435.html">https://www.mie-u.ac.jp/news/topics/2022/06/post-2435.html</a></p>